

2025

1 JAN.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 83

2▶

新年のご挨拶

4▶

各診療科部長  
ご挨拶・紹介

15▶

懇話会報告

# 立川病院 だより



病院外観

# Greeting



国家公務員共済組合連合会  
立川病院 病院長

片井 均

## ご挨拶

新年おめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。連携医療機関および福祉施設の先生方のご厚情とご支援のもと、立川病院はつつがなく新年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

コロナ禍は1200日以上に達しましたが、この間、全職員が院内の感染制御を徹底し、病院機能を通常どおり維持することができました。引き続き、同様な体制を維持し気を抜くことなく職員一丸となり事態に対応していきます。

昨年初は能登半島大地震にはじまり災害拠点病院としてあらためて首都直下型地震への備えを再認識させられたところです。ロシアのウクライナ侵攻の終息の見通しがたたない中、イスラエルのガザ侵攻も起き、こちらも収束については不明です。医業にも大きく影響しています。エネルギー価格の高騰による光熱費、材料価格の上昇さらに円安が拍車をかけ物価高騰は止まらず、医業収支を大いに圧迫しています。

昨年度からの「働き方改革」に対応するため、医療・介護施設では多くの新入職員を雇用しました。立川病院も同様です。しかしながら昨年の診療報酬改定においては、人件費の上昇や材料費高騰分は十分に手当されず、本体分の改定においても病院の収益を改善するには程遠い状況です。また、「ポスト・コロナ」においても新患は戻らず、医業経営は厳冬の時代となる様相を呈してきています。

多くの高齢者の方々が複数の病を患い、複数の専門医の医療や病・病連携、病・診連携により連続したケアを必要としている現実があるなかで、ケアを実現するためには医療連携はますます重要ですが、令和6年度診療報酬改定においては、さらに地域の医療機関の機能分化・連携が推進され、地域連携が潤滑に進まなければどの施設も収支が改善しない仕組みとなりました。当院は地域医療支援病院として地域完結型医療の要となり、連携医療機関および福祉施設の先生方に頼りにされる急性期病院となる必要があります。そのため「顔の見える関係」を構築することが最重要課題と考え、

昨年も11月に地域医療連携懇話会を開かせていただきました。多数のご参加をいただき感謝しております。懇話会後もさらなる関係を地域医療連携センターが主導で進めていきますので、ご協力をお願いいたします。

当院は本年度もがん医療に注力しています。地域間の移動が困難な高齢のがん患者の方々にも早期発見から緩和医療まで包括的に対応し、最良のがん医療を提供することを目的として立ち上げた「院内がんセンター」や小・中・高の子供達へのがん教育などの活動が評価され、東京都がん診療連携拠点病院に指定されましたが、今後も国の「地域がん診療連携病院」になるべく努力を継続します。

今回の診療報酬改定では「単なる総合病院でなく、特徴ある役割を確立できるか」すなわち「存在意義」がますます問われていると思います。まさに当院のビジョン「立川病院ブランドの創生」の実現が求められていると思います。立川病院の信条は3つのP（Patient centered care、Partnership、Professionalism）ですが、職員一人一人には4つめのPとしてPassion、5つめのPとして地域医療連携の要であるPrideをもって目標を目指し行動していきます。

年頭にあたり皆さまのご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 各診療科部長 ご挨拶・紹介

## 循環器内科

新年あけましておめでとうございます。昨年は地域医療におけるご支援、誠にありがとうございました。より質の高い医療を提供できるよう、スタッフ一同尽力して参ります。今後とも、地域のかかりつけ医の先生方と密に連携し、患者さんにとって最善の治療を提供していきます。高齢化に伴い増加傾向である心不全は早期診断、早期介入が進行や重症化を避けるために重要です。労作性の息切れ、BNP高値などでお困りの患者さんをご紹介いただければ幸いです。どんな小さなことでも、どうぞお気軽にご相談ください。引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



循環器内科部長 影山 智己

## 呼吸器内科

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中はひとかたならぬ御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。また多くの御紹介をいただき誠にありがとうございました。

当科は、地域医療貢献と人材育成の2つを大きな目標に掲げ、常勤医6名（木戸、宮崎、柿本、光石、舩津、黄）と防衛医科大学校からの内科専攻医1名（五明）の体制で診療を行っています。

従来通り肺癌・呼吸器感染症・びまん性肺疾患・COPD・気管支喘息など呼吸器疾患全般に対応しています。院内では呼吸器外科や放射線診断科、放射線治療科等の関連各科と協力し、適切な医療を提供できるよう心がけています。また間質性肺炎外来や呼吸器内視鏡検査にも力を入れていますので、対象の方がいらっしゃいましたら地域医療連携センターまでご連絡下さい。

引き続き地域の急性期医療に貢献できるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科部長 黄 英文

## 消化器内科

皆さまあけましておめでとうございます。昨年は皆さまの多大なるご厚意により多数の患者さんをご紹介頂きました。本年も昨年以上に宜しく願い申し上げます。



さて、昨年は皆さまからの沢山のご依頼に対して、ほとんどすべて応需した、応需する努力を最大限したと自負しておりましたが、いかがでしたでしょうか。当科は昨年の懇話会でも紹介しましたように、スタッフがやっと充実し今年は今更なる飛躍の年と考えております。まだまだ至らない点も多いと思いますが、皆さまとともに医療連携を通じて、繁栄していけることを祈ってやみません。

消化器内科医長 古宮 憲一

## 脳神経内科

あけましておめでとうございます。脳神経内科では認知症、パーキンソン病、神経免疫疾患を中心に診療に当たっております。昨年4月から武蔵村山病院でアミロイドPETを施行して頂けることになり、髄液検査以外でもアミロイド蓄積の証明が可能となり、アルツハイマー病に対してレカネマブ治療を開始した患者さんは60例を超えるまでになりました。髄液検査によるβアミロイド比やリン酸化タウ蛋白の測定にも対応しておりますのでお気軽にご紹介ください。今年も認知症や神経免疫疾患に対して続々と抗体医薬が導入され、神経内科治療の革命は続きます。神経内科専門医である服部と久住呂に加えて、後期研修医の村松で日常診療だけでなく、治験も頑張っていきたいと思っております。東京都地域拠点型認知症疾患医療センターとしての活動も引き続き行ってまいります。今年も地域の方々のご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

脳神経内科部長兼東京都地域拠点型認知症疾患医療センター長 服部 英典

東京都地域拠点型認知症疾患医療センター  
フリーダイヤル 0120-766-613



## 血液内科

あけましておめでとうございます。連携医の先生方には大変お世話になり御礼申し上げます。

血液内科は今年度、常勤医師6名、非常勤医師1名の体制でスタートしましたが、現時点では複数名の欠員により、新規の受け入れを停止して診療体制を縮小せざるを得ない状況となっており、大変ご迷惑をおかけしております。新年度に向けて、患者さんの受け入れを再開できるよう、安定した診療体制の確保に努めているところです。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



血液内科部長 外山 高朗

## 小児科

新年あけましておめでとうございます。

日頃より連携医療機関の先生方には患者さんのご紹介ならびにご指導をいただきありがとうございます。

小児科では、先生方よりご紹介をいただく業務時間内の一般外来および神経、心臓、アレルギー、腎臓、心理相談、漢方、呼吸器の各専門外来と、赤ちゃんからティーンまでに対応し付き添いも可能（ご相談ください）な入院病床を備え、本年も立川地域のお子さんの健やかな成長の支えになるべく努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

小児科部長 荒巻 恵



## 腎臓内科・透析センター

### 腎臓内科

新年あけましておめでとうございます。

現在腎臓内科は、常勤医5名体制のもと診療を行っております（二木功治、安田格、押田卓磨、熊谷光祐、鹿浦直樹）。当科では、「健診異常などを契機とした腎疾患の拾い上げ、診断ならびに加療」、「高血圧症・電解質異常の原因精査、加療」、「急性腎障害・慢性腎臓病症例に対する原因精査・加療」、「末期腎不全患者さんに対する腎代替療法の提示ならびに導入」など、あらゆる腎疾患を扱い精査加療を行っております。「立川CKDネットワーク」としての活動も継続しております。本年も引き続き、立川市ならびに周辺地域における腎臓診療の一翼を担うべく、努力していく所存であります。本年も引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

腎臓内科部長 二木 功治

### 透析センター

新年あけましておめでとうございます。

透析センターは、腎臓内科医師、看護師、臨床工学技士など、多職種の協力のもと、当院におけるすべての血液浄化療法管理を担っております。外来ならびに入院全診療科患者さんの血液透析管理を行っております。血液透析以外にも、多様な疾患に対して血漿交換などをはじめとするアフエーシスを、他科と協力し扱います。腹膜透析の導入、管理も実施しております。エコーガイド下シャント血管拡張術も当科で実施し、当院導入の血液透析患者さんについて可能な範囲で、ブラッドアクセストラブルを対応しております。当院での入院を検討されている透析患者さん、合併症治療など急を要する患者さんなどおられましたら、ぜひ地域医療連携センターにご連絡ください。

腎臓内科部長 二木 功治

## 糖尿病・内分泌代謝内科

あけましておめでとうございます。糖尿病・内分泌代謝内科は現在、常勤スタッフ4名（矢島 賢、杉山和俊、黒川安晴、漆原裕記）で診療にあたっております。昨今の糖尿病治療薬の進歩に伴いこれまでの治療と大きく変化していることを考慮し入院による血糖管理や薬物調整を行っておりますのでお気軽にご紹介いただけますと幸いです。また患者支援センターの開設に伴い周術期血糖管理も積極的に行っておりますので手術を検討されている場合は当院にご紹介ください。甲状腺や副腎などの内分泌疾患、二次性高血圧精査についても精査加療を行っております。加えて逆紹介にも力を入れておりますので先生方の医療機関へ受診された際は引き続き御加療のほどよろしくお願いたします。ご相談、お困りのことがありましたら地域医療連携センターにご連絡ください。



ご相談、お困りのことがありましたら地域医療連携センターにご連絡ください。

糖尿病・内分泌代謝内科医長 矢島 賢



## 膠原病・リウマチ内科



新年あけましておめでとうございます。連携医の先生方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

膠原病・リウマチ内科は、今泉ちひろ医師（金曜日、非常勤）、川井雅敏医師（木曜日、非常勤）2名の体制で外来診療を行っています。大学病院の専門医が診療を行っていますので、診療が必要な際には地域医療連携センターまでご連絡いただければ幸いです。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内科統括部長 黄 英文

## 血管外科

旧年中は、大変お世話になり誠にありがとうございました。

血管外科は末梢動脈疾患、静脈疾患、リンパ還流障害に伴うリンパ浮腫、血液透析用内シャント作成などの診療を行なっています。特に、静脈瘤の方は長年悩んでいた足のだるさや皮膚炎が術後すぐに改善し、大変喜ばれています。下肢静脈瘤手術は日帰り治療にも対応しております。これからも迅速かつ丁寧な診療を心がけてまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

血管外科部長 秋山 芳伸

## 消化器外科

あけましておめでとうございます。連携医の先生方には平素より大変お世話になり、また多くの患者さんをご紹介いただき心より感謝申し上げます。

消化器外科は、2024年10月より体制が新しくなりました。大腸肛門疾患専門の矢作雅史医師と似鳥に加えて、上部消化管の技術認定医である中村哲也医師、肝胆膵外科学会高度技能専門医の東尚伸医師、専攻医の齋藤隆医師の5名体制にて手術、抗がん剤治療、消化器内視鏡検査、ESDを含む内視鏡治療、救急対応を行っております。

大腸がんに対するロボット手術（ダビンチ手術）は100例を超え、胃がんに対しても運用を開始しています。それぞれの医師が高度なスキルを持っていると自負しており、低侵襲手術だけでなく、多臓器合併切除や肝胆膵疾患などの高難度手術も可能となっています。また、昨年より導入した腹壁癒痕ヘルニアに対する低侵襲内視鏡手術のeTEP（extended totally extraperitoneal）も20例を超えています。鼠径ヘルニア・胆石症などの良性疾患に対する腹腔鏡手術も積極的に行っています。

患者さんから通院してよかった、地域の先生方から紹介してよかったと思っただけのよう一丸となって地域へ貢献していきたいと思っております。本年もご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

消化器外科部長 似鳥 修弘



## 呼吸器外科

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も皆さまのご支援により滞りなく医療を行うことができ、原発性肺癌や縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、びまん性肺疾患などの患者さんに、140例余の手術を実施することが出来ました。また、2022年より導入したダビンチによるロボット手術も、昨年4月より着任した田中浩登医長（ダビンチ手術プロ



左から矢野（非常勤）、田中（医長）、山本（部長）、大村（非常勤）

クター資格保持者）のもとで更なる適応拡大を図り、安定した実績を積み重ねています。その結果、全症例の4分の3の症例にロボット手術を実施でき、その低侵襲かつ精緻な手術の結果、肺癌の標準葉切除手術でも術後3-4日ほどで無理なく社会復帰が可能になってい

ています。こういった実績を積むことが出来たのも、患者さんやご家族、そして地域医療を支える皆さまのご理解とご協力の賜物と心得ております。この場をお借りして御礼申し上げます。

私どもは歩みを止めることなく、時代や技術の変化にしなやかに対応し、感染対策をはじめ、医療安全や患者さんのニーズに細かく気を配りながら、「常に前へ」をモットーに少しでも地域の医療に貢献できるよう、引き続き努力してゆく所存です。

本年も、引き続きご支援とご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

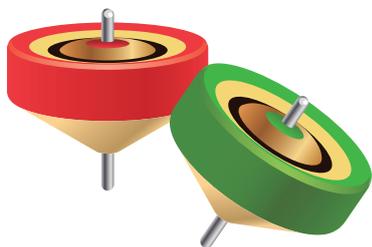
皆さまのご多幸とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

呼吸器外科部長 山本 達也

## 形成外科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い申し上げます。

現在、形成外科は常勤医2名体制（濱田 茉梨子、大井田 恵実）で、全身麻酔、局所麻酔、外来診療を行っております。手術では、続発性リンパ浮腫（乳癌・子宮癌・卵巣癌・前立腺癌などの悪性腫瘍でリンパ節を切除したり、放射線治療でリンパの通り道がダメージを受けて生じる上肢や下肢の浮腫）、原発性リンパ浮腫（もともとリンパ管の機能が弱くて生じる四肢の浮腫）、まぶたの疾患（眼瞼下垂症や上眼瞼皮膚弛緩症、睫毛内反症、下眼瞼内反など）、乳房再建手術、その他の悪性腫瘍切除後の欠損部位に対する再建手術、良性腫瘍（脂肪腫など）、顔面骨骨折（鼻骨骨折、頬骨骨折、眼窩底骨折など）、合（多）趾症などを中心に積極的に行っております。受診希望の患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介のほど何卒よろしくお願いいたします。



形成外科分野の対象疾患は多岐にわたります。外科的治療によりQOLの向上に貢献することを目的とし、患者さん一人一人の精神的負担の軽減や社会復帰を目指し、診療にあたります。

形成外科医長 濱田 茉梨子

## 乳腺外科

新年あけましておめでとうございます。立川病院乳腺外科は年間100件程度の乳癌手術をしています。乳癌の治療は標準治療に基づき、患者さん個々の状況に合わせてガイドラインに沿った形の治療方針を提示し、患者さんと十分に相談をしながら治療方針を決めています。また乳房温存手術が出来ない場合には、要望に応じ形成外科と協力しながら同時再建、二期的再建なども提案しています。治療中の患者さんの手術や抗癌剤、他の治療に対しての不安や恐怖を軽減出来るように心掛けながら診療にあたっています。乳腺外科を本年もよろしくお願い申し上げます。

乳腺外科部長 服部 裕昭

## 整形外科

あけましておめでとうございます。私事ですがさる令和6年は辰年の年男で還暦かつ厄年かつ定年で、おめでたいのか違うのかよくわかりませんが大過なく終えほっとしております。来る令和7年が立川病院整形外科および連携の諸先生方やご家族と職員の皆さまの栄えある1年になることを心よりお祈り申し上げます。

さて立川病院整形外科スタッフ10名は年初よりやる気満々で200%チャージ済みです。連携の先生方や患者さんの思いを受信するアンテナ感度もフルパワーです。外傷、関節疾患、脊椎疾患、手・足外科、骨軟部腫瘍なんでもこいでご紹介をお待ちしております。



👉 いいことあるかも! 📱 📺 📊 📶



整形外科部長 鈴木 禎寿

## リハビリテーション科

新年あけましておめでとうございます。

地域連携医の先生方におかれましては、穏やかな新年を迎えていらっしゃると思います。2025年4月から、当院は土曜外来を休診として週休二日体制となる予定ですが、当科では、4月以降入院中の患者さんに対して土曜もリハビリ訓練を行うべく準備を進めています。入院や術後早期から、切れ目のないリハビリを行い病棟での自立度や活動を上げて早期退院に結び付くようさらに多職種連携に力を入れていきたいと思っております。



診療については、外来は完全予約制で地域医療連携センターを通して予約頂いています。待ち時間がほとんどない診療を心がけています。引き続き脳卒中後の上下肢痙縮や装具の相談、嚥下障害のある患者さんなどご紹介頂ければ幸いです。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

リハビリテーション科部長 黒川 真希子

## 眼科

新年あけましておめでとうございます。眼科は常勤4名で、外来は初診・再診各1名の2診の体制で診療にあたっております。現在、医師は内田敦郎（部長、網膜硝子体）、横溝真由美（医員、眼科一般）、畠山知佳（医員、眼科一般）、荒木梨沙（医員、眼科一般）です。手術は白内障、緑内障、網膜硝子体を中心に行っておりますが、去年は過去最高となる900件以上の手術を無事に施行することができました。また硝子体内注射につきましても最新の薬剤を採用し積極的に対応しております。近隣の先生方におかれましては、日頃から多くの患者さんをご紹介いただいておりますことを心より感謝申し上げます。ご紹介いただいた患者さんは経過が良ければ早期に逆紹介させていただきます。本年も患者さんを中心とした医療を心がけ、地域医療に貢献できるように当科スタッフ一同で努力してまいりますので、何卒よろしくようお願い申し上げます。

眼科部長 内田 敦郎

## 脳神経外科

あけましておめでとうございます。先生方におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。一昨年10月のてんかんニューロモデュレーションセンター立ち上げ後、当科では順調にてんかん手術件数が増えてきており、これまでに13件実施し、どれも良好な成績をおさめています。引き続き関係各科と連携し、地域のてんかん診療の底上げに尽力して参ります。また一般脳神経外科疾患についても、乳幼児から高齢者までこれまでと変わらず対応して参ります。地域の先生方に更なるご協力をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

脳神経外科部長  
てんかんニューロモデュレーションセンター長  
杉山 一郎



第24回立川病院医療連携懇話会にて  
左：杉山、右：石原恵理子  
(医員)

## 皮膚科

新年あけましておめでとうございます。

皮膚科は常勤医4名体制で、多摩地域の皮膚科診療の要として、皮膚悪性腫瘍や重症患者の対応にあたっております。また下腿潰瘍、足壊疽などのご紹介も多く、合併症のある場合は総合病院の利点を生かし、関係部署と連携をとりながら診療を行っています。外来では脱毛症、爪疾患（陥入爪、巻き爪等）、粘膜病変の診断、治療も可能です。生物学的製剤の導入も積極的に行っており、難治のアトピー性皮膚炎、乾癬、蕁麻疹等の患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

本年もよろしくようお願いいたします。

皮膚科部長 稲積 豊子



## 産婦人科

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年中は、地域の皆さま方に多大なるご支援とご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

多摩地域の産婦人科診療を取り巻く環境が厳しさを増す中、当院もNICUが一時休止となり、杏林大学や多摩総合センターとの一層の連携構築に取り組みました。評判の産後アフタヌーンスイーツは継続しながら、全般的な産後ケア支援もより充実させて参ります。悪性腫瘍においては合併症の少ない手術や免疫薬剤や分子標的薬を含む多様な薬物療法にコミットメントし、良性腫瘍や骨盤臓器脱においては腹腔鏡のみならずRSCやRATLHのロボット支援下手術やvNOTES等の低侵襲技術を駆使し、地域に貢献してまいります。

今後も女性ヘルスケア診療としてライフコースを通じた視点から女性に寄り添い、より安全で質の高い医療の提供に努めて参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



産婦人科主任部長 平尾 薫丸

## 精神神経科

あけましておめでとうございます。

精神保健病床を持つ総合病院のことを、単科精神病院に相対する形態として、有床精神病院精神科と呼びます。あまり知られていませんが、2020年以降都内の総合病院では精神保健病床の廃止が相次ぎました。最近では東京医療センターが記憶に新しいところです。有床総合病院精神科は今や希少種ですが、立川病院精神神経科は生き残っています。その秘訣はやはり精神障害者の身体合併症に特化することにあると考えています。

今年度もぶれずにこの方針を貫く所存です。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

精神神経科部長 桑原 達郎

## 泌尿器科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は連携医の皆さまに大変お世話になりありがとうございました。

昨年は明瀬祐史、香久山裕史、久富木原良平、速水幹による常勤4名および水曜、金曜、土曜外来非常勤医師での体制で診療を行いました。

本年はチームワークをモットーに、泌尿器科のパフォーマンスをより高めていきたいと考えております。そして、病院内のチームワーク、連携医の皆さまとのチームワークをも高め、今後も地域の皆さまに貢献できるよう努力いたしますので、何卒ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



泌尿器科部長 明瀬 祐史

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

新年あけましておめでとうございます。旧年中は連携医の皆さまには大変お世話になり有難うございました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の常勤医は、羽生昇部長（専門：頭頸部腫瘍）、富永健裕医長（専門：喉頭）、石川雄惟医員（専門：鼻副鼻腔）、高原美希医員の4人体制となっております。

外来診療は、2～3診で行っており、補聴器相談、身体障害認定（難聴）、好酸球性副鼻腔炎の指定難病にも対応しております。

手術は耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般（口蓋扁桃摘出、鼻副鼻腔手術、耳下腺・顎下腺・甲状腺良性悪性腫瘍、咽喉頭内視鏡手術、声帯頭微鏡手術、誤嚥防止手術、鼓膜チューブ挿入術、舌咽喉頭癌手術）を扱っております。病診連携をさらに充実させ、患者さんの診療情報共有を図りたいと考えておりますので、本年もどうぞよろしくご指導をお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 羽生 昇

## 緩和ケア科

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりありがとうございました。緩和ケア科は緩和ケアチームとして活動しています。外来・入院ともに主科チームと連携し患者さん・ご家族の困りごとの解決のサポートをおこなっています。その他にも緩和ケアに関し研修や広報につとめています。

緩和ケア研修会においては、参加者・講師ともに院外から招くことができ、実りある研修を行うことができました。また、来院の方が手書きのメッセージを貼り付けることができるホープツリーや栄養補助食品の試食を含めた、ホスピス緩和ケア週間の展示を行うこともできました。今後も地域のみなさまと協働し緩和ケアの推進に努めてまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア科部長 秋山 芳伸

## 内視鏡科・内視鏡センター

旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。2025年を迎え、内視鏡センターでは新しい診療機器導入と消化器内科医師増員により診療体制が一層強化されました。これにより、咽喉頭・食道・胃・十二指腸・全結腸の消化管全域で、早期癌の診断治療が可能となり、地域における癌診療への体制がさらに向上しました。



今後とも、近隣の開業、市中病院の皆さまと連携し、より安全で質の高い内視鏡診療の提供に努めて参ります。引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆さまにとって、健康とご多幸に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

内視鏡センター長 大森 泰

## 放射線治療科

あけましておめでとうございます。

当科では、毎日約30～40名の院内外の患者さんに放射線治療を行っています。昨年に最新の放射線治療計画が導入され、難しい部位にあるがんや、正常臓器を避けながらの放射線治療も可能となり、従来にも増して体への負担が少ない治療を提供できるようになりました。

医療技術が急激な進歩を遂げている昨今に於いても、がんは難しい病気ではありますが、なるべく患者さんの思いに沿う治療となる様に心掛けています。

本年も、主治医の先生と連携しながら、スタッフ一丸となって患者さんに最適な医療を提供してゆきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

放射線治療科部長 沓木 章二



## 放射線診断科



新年あけましておめでとうございます。

昨年、キャノン製の最新型320列CTを導入しました。ディープラーニングを用いた被ばく低減や画質向上の機能が搭載され、日々の診療に大いに役立っております。

今年は1.5テスラMRI装置が更新される予定です。MRIにおいても近年ディープラーニングを用いた技術が導入されており、また患者さんに乗せるコイルも軽量で使い勝手の良いものに進化しております。画質の向上はもちろんのこと、撮影時間の短縮が期待され、検査室の運用効率が向上し、検査の予約がとりやすくなると見込んでおります。

新しい装置を用いて、先生方のお役に立てるように努めてまいります。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

放射線診断科部長 岡村 哲平

## 救急科

新年あけましておめでとうございます。

救急科は通常診療時間内の救急車搬入患者および重症かつ緊急を要する救急患者の初期診療にあたっています。医療機関から専門治療目的で当院の地域医療連携センターにご紹介いただいた救急患者については、当該診療科の救急担当医を中心に診療しています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

救急科医長 上倉 英恵



## 麻酔科

謹んで新春をお祝い申し上げます。麻酔科は手術室での麻酔業務、患者支援センターでの術前診察、術後疼痛管理チーム、緩和ケアチームなどの業務を行っています。

手術室での麻酔業務として2023年度は3,613件の手術を麻酔科管理で行いました。また同年度の総手術件数は6,306件と過去最高を記録致しました。麻酔科管理手術については、ロボット支援下手術が増加し、開腹・開胸手術は減少傾向にあります。麻酔法では超音波装置を併用した神経ブロックを行うことが増えています。

麻酔科の体制は常勤医10名で、うち9名が麻酔科専門医（麻酔科指導医7名含む）の充実した体制となっています。

患者支援センターでは麻酔科医が入院前に術前評価を行い、必要な検査や他科コンサルトを早期に行うことで入院期間の短縮を図っています。

昨年からは術後疼痛管理チームの運用を開始し、手術後に患者さんが帰棟したあとに生じる痛みや吐き気などの不快な症状に対応する体制を強化しました。

皆さまから御紹介頂いた患者さんが手術となった時に、速やかに安全な手術環境を提供させて頂くことで、皆さまのお役に立ちたいと思っております。本年も宜しく願い申し上げます。

麻酔科部長 羽鳥 英樹



麻酔科医と手術室スタッフの仲間たち

## 歯科口腔外科

新年あけましておめでとうございます。

当院歯科口腔外科は常勤歯科医師（部長 木津英樹、医長 臼田 慎、長嶺宏樹、永田香織）の4名、また非常勤歯科医師として慶應病院歯科口腔外科より派遣して頂いており、歯科衛生士は常勤5名で診療を行っています。

初診予約制となっております。当院外来予約センター（042-523-3856）で予約をとって受診してお願いしています。手術の予約が混んでいるためお待ちいただくことがありますが、今後混雑改善のため対策を予定しています。なお緊急性がある場合には歯科口腔外科外来に直接お電話下さい。当科は埋伏歯抜歯、歯根端切除術、インプラント治療、顎変形症手術などの口腔外科手術を専門的に行っております。入院・全身麻酔による手術の対応や困難な抜歯や不安や痛み心配な方の静脈内鎮静下の手術を短期入院で行っています。

今後も安全で安心な診療ができるようスタッフ一丸となり心がけて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科部長 木津 英樹



## 臨床・教育研修センター

新年あけましておめでとうございます。

当院では現在14名（基幹型10名、協力型4名）の初期研修医が研修に励んでおります。昨年8月に行われた2025年度採用初期研修医選考試験には46名の応募者があり10年連続でマッチング率100%となりました。研修にご協力頂いている地域の先生方には重ねて御礼申し上げます。

当院の教育で「全人的医療を実践する力」「確固たる倫理観に基づき判断する力」「自ら学習と研鑽をつむ力」を修得させることが、研修医達のこれからの長い医師人生に多くの実りをもたらすものと信じ、社会の福祉のために貢献出来る人材を育成することを目標に、本年も努力してゆく所存ですので何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



立川病院の初期研修医は、様々なシミュレーション研修を受講し、スキルの向上と安全な医療提供に努めています。また、学会発表の経験を積み、充実した毎日を過ごしています。

臨床・教育研修センター長 森谷 和徳



## 報告

### 立川病院地域医療連携懇話会が開催されました

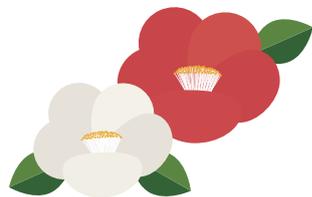
昨年11月19日(火) 19時より、ホテルエミシア東京立川において「第24回立川病院地域医療連携懇話会」が開催されましたので、報告させていただきます。

前回に引き続き、着座形式の会場の各テーブルには、西洋料理のコースが運ばれるなか、各診療科医師から挨拶がありました。

今回の懇話会は、過去最多の出席者268名（各市医師会長を始めとする客員医員の先生やそのスタッフなど196名、当院職員72名）となり、当院職員が「顔が見える挨拶」を心がけ、会場内を行き来する、終始賑やかな2時間となりました。最後に、地域医療連携センター部長である秋山副院長より閉会の挨拶がされると、盛大な拍手のうちに、無事閉会となりました。

アンケート調査でも、回答があった方々の皆さまから「良かった」との高評価を頂きました。併せて寄せられた貴重なご意見なども参考にしながら、次回には更に盛大な会になるように努めて参ります。

### 立川病院地域医療連携懇話会



地域医療連携センター



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで  
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和7年1月1日（年6回）  
発行者：立川病院地域医療連携センター  
編集者：片井均、風間友子

**国家公務員共済組合連合会 立川病院**

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

**地域医療連携センター**

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160